

事業名：地域や関係機関と連携した防犯教育公開事業（学校安全総合支援事業）
 モデル地域：山武市松尾中学校地区 拠点校：山武市立松尾小学校

所轄教育委員会：山武市教育委員会 電話番号：0475-80-1443

1 モデル地域の現状

- モデル地域名：山武市立松尾中学校地区
- 学校数：こども園1園 小学校2校
中学校1校 高等学校1校
- 取り組む領域：防犯を含む生活安全

2 モデル地域の安全上の課題

拠点校は、統合により平成31年度に新たにコミュニティ・スクールとして開校し、学区が拡大した。そのため、地域の新しい人間関係の中で、自分達の住む地域を見直し、自分の身を自分で守る力を身につけることが求められる。

3 取組の概要

実施時期	計画事項	参加者
各月	防犯パトロール あいさつ運動	教職員
7月	第1回実践委員会 第2回実践委員会 (教職員による模擬 フィールドワーク)	実践委員 実践委員 教職員
9月	第3回実践委員会 (児童による校内模擬 フィールドワーク) 運動公園でのフィール ドワーク	実践委員 教職員 児童 教職員 児童 保護者
10月	第4回実践委員会	実践委員

	松尾小学区でのフィール ドワーク	教職員 児童 保護者
11月	第5回実践委員会 防犯教育公開研究会	実践委員 教職員 児童 保護者
12月	第6回実践委員会	教職員

4 具体的な取組

(1) 学校安全の中核となる教員の資質能力の向上に係る取組について

ア 実践委員会における情報共有

6回の実践委員会を開催した。本校の防犯の課題、今後の取組などを話し合った。

<実践委員>

立正大学教授

東上総教育事務所指導主事

山武市教育委員会学校教育課指導室
室長・指導主事

松尾小学校運営協議会会長

松尾小学校PTA会長・副会長

交通ボランティア

大平小学校・松尾中学校安全主任

松尾小学校教職員

イ 運動公園でのフィールドワーク

令和元年9月30日（月）

児童36名、保護者6名参加

松尾小学校区でのフィールドワークの前に、松尾運動公園でのフィー

ルドワークを行い、デジタルカメラ、ICレコーダー、GPSロガーなどの使用方法の確認をした。

また、見る視点として「ひみつくじ」を合言葉に安全、危険個所を探して防犯意識を高めた。



- 「ひ」一人だけになるところ
- 「み」見えにくい場所
- 「つ」通路
- 「く」暗くなったらきけん
- 「じ」自由に出入りができるところ

ウ 松尾小学校区でのフィールドワーク

令和元年10月21日（月）

児童36名、保護者12名参加

松尾小学校区でのフィールドワークでは、4年生が8グループに分かれ行った。各グループに職員・保護者が入り、一緒に活動をした。

また、あえて自分の通学路とは別の地域を調べることで新たな発見をしながらフィールドワークを行うことができた。フィールドワーク後は、班ごとに分かれて安全マップを作成した。



エ 防犯教育公開事業実践発表

令和元年11月20日（水）

教職員・教育関係者・実践委員

保護者

82名参加

研究テーマ

「自分の命は自分で守ることができる
児童をめざして」

～地域とともに作る『聞き書きマップ』
を通して～

松尾小学校を会場に、防犯教育公開事業の実践発表を行った。

(ア) 授業

4年1組 総合的な学習の時間

単元名「みんなでつくる安心なまち

松尾！」

本時の目標

松尾小学校区での特徴を知り、どんなことに気をつければ良いか積極的に考えることができる。

授業では、「ひみつくじ」の視点で調べてきたことをもとに、危険な場所をランキングに表した。そして、危険な場所1位になった場所ではどんなところに気をつけたら良いのかをグループや全体で話し合った。こうして防犯意識を高め、危険を予測したり、判断したりする力を育むことができた。



(イ) 防犯公開事業研究概要説明

本校の研究概要の説明を行った。

(ウ) 記念講演会

立正大学法学部法学科教授
原田豊先生

「聞き書きマップを活用した防犯
教育の成果と課題」

立正大学教授の原田先生から「聞き書きマップ」の実践例、今後の見通しなどを御講話いただいた。「聞き書きマップ」の必要性について充実した研修をすることができた。

(2) 学校安全の取組を評価・検証するための方法について

山武市内全ての小・中学校で、安全主任を対象に、校内の安全体制及び取組状況について、6月と12月に調査を実施した。調査結果については、次年度の市教委主催の安全主任研修で活用する。

ア 地域と連携した防犯体制（見守り活動、定期的な協議会の開催など）が構築されている学校の割合
94.1%(16校/17校)

イ 「地域安全マップ」や「危険箇所マップ」の作成及び活用が実施されている学校の割合
94.1%(16校/17校)

※いずれも事業実施後の調査結果

地域と連携した防犯体制づくりのために、他校との情報交換や地域との情報共有及び連携を積極的に進めていかなければならない。また、各学校において、「安全マップ」は作成するだけでなく、「安全マップ」を活用した安全教育を進めていく必要がある。

(3) その他の取組について

市内通学路交通安全プログラム合同点検において、学校・関係機関・地域で、防犯の視点からも合同点検を実施した。改善を必要とする箇所については、年度内に整備を完了する予定である。

6 成果と今後の課題

【成果】

- 「聞き書きマップ」を使って学習を進めることで、自分達が歩いた所がわかりやすく地図になった。どの児童も主体的に取り組み、グループで意見を交換し、考えを深めることができた。
- 地域や保護者の方に大変熱心に取り組んでいただいた。今回の事業を通して、更に、地域と学校が連携して防犯について考えることができた。今後もコミュニティスクールとして地域に支えられ、地域を支える学校でありたいと考えている。
- 児童が「聞き書きマップ」の作成を通して、「ひみつくじ」の視点で、興味関心をもって体験的に学び、安全意識を高めることができた。
- 「聞き書きマップ」について市内及び他の学校への普及を図ることができた。
- 講師（立正大学 法学部法学科 教授）の専門的知見による指導により、防犯学習についての教師の力量を高めることができた。
- 講演会において、「聞き書きマップ」の必要性について充実した研修をすることができた。

【課題】

- 「聞き書きマップ」は、効果的なソフト

であるが、機器の操作習得に一定の時間を要する。

○機材の充電、データの取り込みなどに時間がかかった。

○防犯に対しての児童の意識は高まったが、実際の生活にどう生かしているのかを今後見取っていく必要がある。